

令和2年度第5回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和3年3月23日（火） 午後6時30分～午後8時15分

■開催場所：職員会館かもがわ2階 大会議室

■議題：

- (1) 第3期京都市市民参加推進計画（最終案）について
- (2) 市民参加ハンドブックの作成案について
- (3) 令和3年度以降のフォーラム活動について

■報告事項：

- (1) 市民参加に関する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員14名

（荒木委員，乾委員，内田委員，金田委員，兼松委員，木村委員，嶋倉委員，菅谷委員，角田委員，橋本委員，壬生委員，森川委員，森実委員，森本委員）

■傍聴者：なし

■特記事項：

動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）を利用し，後日，音声配信を実施する。
Zoomを用いたWeb会議と併用開催した。

【議事内容】

1 開会

2 座長挨拶

<内田座長>

事務局から議題と本日の流れについて説明をお願いします。

<事務局>

（議題の説明，資料確認，時間配分について説明）

3 議題

議題（1）第3期京都市市民参加推進計画（最終案）について

<内田座長>

それでは、早速、議題1「第3期京都市市民参加推進計画（最終案）について」に入りたいと思う。まず、事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

（資料1「計画（最終案）のポイントについて」、資料2「第3期京都市市民参加推進計画（最終案）」説明）

<内田座長>

説明いただいたことについて、質問等あればいただきたい。

<森実委員>

現状を踏まえて、数値目標の妥当性を説明するべきではないか。財政効果については、どのように評価するのかを次年度にしっかりと議論するべきだと思う。

<事務局>

京都市としては、高い数値目標だと考えている。妥当性については、フォーラム会議や議会で報告する中で評価をお願いしたい。市民協働は、財政効果を目的とするものではないが、協働による課題解決の挑戦では、公民連携で生じる財政効果も市民にしっかりと示す必要があると考え、指標を設けた。

<森実委員>

これまでの実績値を併せて掲載することで、現状に対する目標が分かるのではないか。

<事務局>

実績値は、有るものと無いものがあるため、HPでの掲載方法の工夫等を考えたい。

<木村委員>

市会報告では、どのような意見が出たのか。

<事務局>

大きく2つの意見をいただいた。1つ目は、計画を作るのは良いが、成果の見えにくい市民参加について、どのように成果を出すのか。2つ目は、計画を着実に実行するために、どのように周知するのか。

答弁では、計画を作ること自体や、周知・共有することが目的ではなく、計画に基づいて、どのように市民と共に協働・実践していくかが課題であると説明した。より多くの人と協働し、その中で市民参加の成果を実感する取組につなげる必要がある。また、指標も含めて協働の成果を見える化し、庁内でも共有して評価してもらうことで更に協働が進むと考えており、そのガバナンスを市民協働推進担当として進めたい。

<木村委員>

行政の取組として設定された指標と、計画を着実に進めるための推進体制の内容に、重複感があると思う。推進体制の内容をスリム化して見直しても良いのではないか。

<事務局>

推進体制の内容に重複部分はあるが、基本方針1～3でも同様に重複部分がある。一つの取組に複数の意味合いを含む場合があり、再掲等もあるので、一定の重複は問題ないと考えている。

<木村委員>

話の流れを分かり易くするために、新しく出したポイントである重視する視点をアピールした方が良いのではないか。

<内田座長>

冊子の編集自体は難しいと思うが、新しいポイントを目玉とした分かり易い情報発信の工夫をしていくことが必要だと思う。

<荒木委員>

改めて、この計画は誰のためのものなのかを聞きたい。数値目標は、市民が当事者意識を持って取組を進めるためのものだと思っていたが、記載されている数値目標は、京都市の市民参加推進担当部署としての目標に思える。

<事務局>

基本的には、行政が定める計画であり、行政が行うことを書いている。しかし、市民参加の計画であることから、市民と行政が共に取り組む目標を掲げられることが最善であるが、検討する時間が足りなかった。今後、継続的に検討を行いたい。

<荒木委員>

現状の数値目標は、市民活動を既に行っている立場でも、どう貢献できるのか想像しにくい。市民が当事者となる計画になるよう、今後も一緒に検討していきたい。

議題（2）市民参加ハンドブックの作成案について

<内田座長>

次に、議題2に入りたいと思う。事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

（資料3「市民参加ハンドブックの構成案」説明）

<内田座長>

説明いただいたことについて、ご意見等あればいただきたい。

<菅谷委員>

多様なテーマが描かれているが、協働を広めるためには、どこに相談したり、協力を求めにいけば良いのかが分かるようにすると、使い易いものになると思う。

<内田座長>

過去の議論でも、ガイドブックを見て市民のアクションが引き起こされると良いという意見が出ていた。具体的な工夫のアイデア等もあれば出していただきたい。

<金田委員>

タイトルは、ガイドブックという名前で良いのか。また、市民参加の取組の色々な場面が載っているのは面白い。しかし、既に有る取組が主に描かれているので、新たな取組につながるように、最後に取組を拡げて新たな京都を作り出すような問いかけのようなメッセージがあると良いのではないか。

<事務局>

タイトルは確定ではない。ガイドブックではなく、ガイドマップの方が良いのではないかという案も出ている。市民参加にあまり興味のない層に、気軽に手に取っていただけるようにしたいと考えている。

<森実委員>

タイトルの「みんなでつくる」の後の「？」が気になる。若者を下に見ている表現ではないか。もっと率直に参加を呼び掛ければ良い。最初から若者との間に壁を作っている印象を受けた。「？」は要らないと思う。

<乾委員>

どれくらいの費用をかけて作るのか。

<事務局>

計画策定の委託費用の中に含まれている。内訳は後日共有したい。

<乾委員>

コミュニケーションツールとして使うのであれば、吹き出しの部分を空白にして、若い世代の子ども達の考えや見え方を書いてもらおうと良いのではないか。これをきっかけに、子ども達と対話して色々と考えていくことで、市民参加のイメージも広がると思う。

<角田委員>

タイトルは「みんなでつくる京都に向けて」はどうか。また、実際の大きさは分からないが、文字が多くビジーな印象を受けた。分かり易い絵に対して、内容を盛り込み過ぎでないか。そして、2次元コードの誘導先は、計画とポータルサイトの2つで確定なのか。第3期計画につなげるためだけのものなのか。

<事務局>

第3期計画にもつながれば良いと考えている。また、計画を作り、その概要版を作るとはよくあるが、市民参加の裾野の拡大という観点から、市民参加のきっかけ作りのためのガイドブックであり、計画につながる2次元バーコードも付けている。

<角田委員>

計画を見る層と、ガイドブックを見る層のギャップが大きいのと思う。ポータルサイトへのリンクは良いと思うが、ガイドブックを見る層は計画を直接見ないと思うので、ポータルサイトから計画を見てもらうことにしてはどうか。もう1つ2次元バーコードを付けるのであれば、京都市へ気軽に意見を言えるようなリンク先等、少しでもアクションを起こせる内容が良いと思う。

<森川副座長>

タイトルの文字は小さくして、このまちのことを考えるきっかけになってほしいという気持ちをストレートに書けば良いと思う。また、裏面で一番見てほしい所は、吹き出しの箇所だと思う。その場合、吹き出しにパッと目がいくデザインになっていない。吹き出しの中のキーワードなどに目がいくようなデザインになると良いと思う。

<壬生副座長>

表面と中面でイラストの位置が変わっているのはなぜか。同じ方が探し易いが、あえて探させる意図であればそれでも良い。また、吹き出しが最も大事だと思うが、内容に統一感が無いので、表現に統一感を持たせると読み易くなる。そして、表面と中面のイラスト

の配置が一緒であれば、中面のイラストを少し薄くして文言を目立たせるような工夫等も考えられると思う。

<橋本委員>

パッと見たときに、どのように見れば良いかが分からなかった。字が多過ぎると思う。一番伝えたい吹き出し以外の文字を短くしてはどうか。中学校のような授業で使う場合には、吹き出しの中の文字も無い方が良いと思う。また、市民参加推進計画冊子の表面のデザインも同じデザインなので、2次元バーコードでのつながり以外でも、何かつながりが分かるようにできると良いと思う。

<森本委員>

見開きではなく、1枚の大きな地図のような媒体にしても良いのではないか。また、吹き出しの中の記載がないと、答えを出し難いような内容もあるので、記載はある方が良いと思う。レイアウトももう少し考えた方が良い。そして、一つ一つのイラストに、2次元バーコードをつけて詳細が見れるようになっていると、使い易くなると思う。

<木村委員>

タイトルは、ガイドブックよりもガイドマップの方が良いと思う。そして、色々なことが網羅的に市民参加だと分かるようにイラストが工夫されていて凄く良いと思った。人と人との接点をうまく表現できている。コロナ禍でできなくなった人と人とのつながりを、これから市民一人一人が大事にして皆で良くしていくことを情報発信するのに非常に良いと思う。

<嶋倉委員>

イラストに京都っぽさを入れた方が分かり易いのではないか。大文字山や京都タワーなどの具体的な例があると実感し易いと思う。また、小学生に使っていただくのであれば、答えを書いておかない方が、面白い意見を出してくれると思う。

<兼松委員>

デザイナーによって作られている内容なのか確認したい。

<事務局>

イラスト等はデザイナーに作っていただいているが、記載する内容や構成については、事務局で考えた。

<兼松委員>

自分が作るとすれば、すごろくにする。すごろくであれば、どこを見れば良いか分かり易くなり、空欄のマスをつくることで自身の考えを記載することもできる。当事者研究すごろくのような事例も幾つか出ている。すごろくは、全て決められているより、自分で作る方が面白い。例えば、3回休みは、京都市の市民参加では何になのかといった遊びの考える要素を入れることができる。また、雑然として見難いのは確かなので、すごろくに限らず何らかの形式パターンでまとめられると見易くなると思う。

<事務局>

デザインは完成形ではないので、もう少し内容を整理して、目の誘導や楽しみ方など、工夫できるように考えたい。

<内田座長>

今後の作成スケジュールはどうなっているのか。

<事務局>

今年度中に作成するものであり、3月末までにとりまとめて作成する。

議題（3）令和3年度以降のフォーラム活動について

<内田座長>

次に、議題（3）に入る。事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

（資料4「令和3年度以降の活動予定」説明）

<内田座長>

説明いただいたことについて、ご意見等あればいただきたい。

<橋本委員>

会議の実施形態に関して、特に夜間の開催では、オンラインの方が参加し易い人もいると思う。コロナの収束後は、オンラインとリアルハイブリッドでの会議になると思うが、京都市は広いので、オンライン参加という選択肢があることで、公募委員になってみようとする人が増えることは良いことだと思う。

<乾委員>

オンライン併用開催の場合、資料共有方法等の傍聴ルールは決まっているのか。

<事務局>

今年からオンラインでの傍聴を始めたので、ルール整備はこれから行うことになる。前回オンライン傍聴された方からの御意見として、共有ファイルを見られないこともあり、事前の資料共有をお願いされているが、検討すべきことだと考えている。一方で、審議会ですべて初めて公開になる議題や資料も多いので、資料データの共有方法を事前にお伝えしたり、会議開始の1時間前に資料送付するなど、適宜対応可能な内容を確認しながら、運用してルール整備を進めたい。

<乾委員>

オンライン傍聴など、オンラインでの市民参加について、フォーラム会議の議題に入れても良いのではないかと思う。

<木村委員>

他の自治体のベンチマークは大事だと思う。来年度以降、他都市調査の計画はあるのか。

<事務局>

現時点で決まった内容は無い。例えば、効率的・効果的な手法という議題があれば、その内容に沿う他都市調査を行うこともできる。

<内田座長>

委員からも、市民目線で気になる・興味のあるまちを提案しても良いと思う。

<木村委員>

日本の都市だけではなく、市民参加が進んでいる海外都市のベンチマークを行っても良いのではないか。発想が大きく変わるような発見があるかもしれない。

<森川副座長>

基本的事項の計画の進捗に係る議論は、どのような内容を想定しているのか。基本方針毎のアンケート調査や他都市の事例調査などを行う認識で正しいか。

<事務局>

過去行ってきた内容では、他都市の事例調査や、数値化できる施策はその実績値で進捗評価してきた。また、ヒアリング調査等も行ってきた。

第3期計画の初年度に当たる令和3年度に関しては、どのような調査が必要かも含めて検討していくことになると思う。

<森川副座長>

市民力の向上をどのように測るかなど、指標についても継続して議論していければ良いと思う。

<内田座長>

来年度どのように進めていくかは、委員も考えていくべきことだと思う。会議後でも、何か思い付いたことがあればご連絡いただきたい。

それでは、報告事項に移る。事務局に説明願いたい。

4 報告事項

報告事項（1）

<事務局>

（資料5「市民参加に関係する新しい事業や取組」報告）

<内田座長>

以上で本日の議題、報告事項は終了となる。昨年度から、提言書の作成を行い、1つの節目として、年度末には第3期計画が策定される。来年度からは、この計画を一緒に動かしていくことになるので、よろしく願いたい。

最後に、今年度で任期満了となる兼松委員、橋本委員、壬生副座長から一言いただきたい。

<兼松委員>

ざっくばらんに色々なことを議論できて楽しかった。京都市の市民参加は、凄く面白いことをしていると思う。京都市の市民参加モデルが、他都市にも広がることを期待している。本当にお世話になり、ありがとうございました。

<橋本委員>

2年間あっという間に過ぎたように思う。これからも一人の市民として市民参加していきたいと思う。色々とお世話になり、ありがとうございました。

<壬生副座長>

6年間、フォーラム委員として色々経験できて感謝している。今後の財政状況を考えて、計画の進捗や効果をどう見える化するのか、本当に大切だと思う。個人でも引き続き考えたいと思うが、今後のフォーラムでの議論も見させていただくつもりである。今後とも、どうぞよろしく願いたい。

<内田座長>

引き続き、貴重な御意見をいただきたいと思う。どうもありがとうございました。

5 閉会

<事務局>

退任される兼松委員，橋本委員，壬生副座長，本当にお世話になり，ありがとうございました。また，本日も闊達な御意見，ありがとうございました。本年度の会議の終了に当たり，下間総合企画局長より，一言御挨拶申し上げる。

<下間局長>

退任される委員の皆様，本当にありがとうございました。引き続き，京都市の市民参加にお力添えをお願いしたい。

市民参加推進フォーラムの委員の皆様には，この間，「市民意見を聴く場」の開催，計画策定に当たっての提言書の作成後も，骨子案，パブリック・コメント，そして，計画最終案の取りまとめまで，闊達なご議論と，様々なご協力をいただいた。深く感謝申し上げます。

おかげ様で，第3期目となる市民参加推進計画については，3月末には策定する段取りとなった。また，本日の議論でもあった通り，計画策定を一つの区切りとして，4月からはまた新たなスタートを切ることとなる。本日の議論を活かせるようにしたい。

京都市は，コロナ禍と財政危機の中にある。その中でこそ，「参加と協働」が本当に必要だと思う。現在，京都市基本計画の策定を行っているが，その中でも都市経営の理念に，「参加と協働」をしっかりと据えている。

市民参加推進計画に盛り込んだ内容は，行政としても事業目標も立て，しっかりと進めてまいりたい。そして，京都市の強みである「市民力」の更なる向上を，市民の皆様と共に目指してまいりたい。市民参加推進フォーラムの皆様には，次年度からも引き続き，お力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上